

# CLT普及にプレカットの役割増

## 宇都宮で中大規模木造フォーラム

栃木県木材需要拡大協

栃木県木材需要拡大協議会(林紀一郎会長)は12日、宇都宮市内で「中大規模木造建築推進フォーラム」でCLT等先進技術活用」を開いた。県内を中心に木材関連業者や設計士など約200人が参加した。



CLTの可能性を話し合ったフォーラム

CLT実績・研究報告を行った中島浩一郎銘建工業社長は、欧州でCLT建築が急速に進んでいることに触れ、「来年イギリスに大型CLT工場ができる」と聞いており、ロンドンの慢性的高家賃を是正し、質料を抑えた木造住宅を整備する」という。一部報道ではロンドンでCLT住宅を10万戸建てるとか、2020年までにCLTで低所得者向け木造住宅を100万戸建築するとういにかわらぬ。時代は確実に信じていたい状況になっている。時代は確実に局面が変わっている」と述べた。

欧州の木造建築は、1990年まではどの国も2階建てだったが、ウィーンで24階建てが決定して始動し、ものの数十年で建築物が様変わりしていることを解説した。さらに、北米でもCLT利用が始動し、2×4で届かない木造建築の世界をCLTで取り組む動きを紹介したほか、建築だけでなく資源探査で山林に踏み込む際、トラック敷板でCLTを用いる土木利用にも話題を広げた。

引き続き国内のCLT建築の概要を説明した後、「木材で新商品はまだまだ出てくる。従来商品では満足できないものがある。来月台湾でCLTセミナーを急遽開催することになったが、来年は海外で1つはCLT建築を

実現しようと取り組んでいる。地上にある使える資源は木材が圧倒的。技術と価値観で新しい切り口を提案したい」と意欲を示した。セミナーでは、中島史郎宇都宮大学地域デザイン科学部教授がCLTパネル工法技術基準告示を中心に内容を解説したほか、大橋好光東京都市大学教授が「中大規模木造の動き」と題して基調講演を行った。

パネルディスカッションでは、大野英克栃木県林業振興課課長補佐をコーディネーターに、「CLT工法・中大規模木造建築への普及促進について」と題して議論した。参加者は、前出3人と早川孝市庁舎を県産材CLTで建て替えることを市

長側へ要請したい」と地元利用に期待を寄せた。

中島社長は「欧米のCLTメーカーは加工を自前でやるが、日本には世界に誇るプレカット工場がある。日本でプレカットは普遍化した。それが早川社長が指摘したようにプレカット加工賃は20年前比で3分の1から4分の1となり、品質を高めコストを下げた。プレカット工場がさらに建て方まで対応するとCLTの普及に関して欧米にないような手を打てると思う」と指摘し、軸組で培ったプレカット技術がCLTの普及でも大きな役割があるとした。

香月調査官は国がCLTに期待することやその政策方針を説明し、人口減少で新築戸建ては減少見通しで非住宅・中大規模建築の市場拡大の必要性を述べた。

省大臣官房政策調査官の計5人。大橋教授は、CLTのメリットは建物が軽くなり基礎のコスト削減と短工期になることを挙げた。「CLTは壁構造でまず使われ、老健施設やホテルなどで建設が進んできた。今後は6、7階が具体化してくるため、CLTの利用で広がりが出てきた」と続けた。

早川社長は自社プレカット事業や、プレカット業界で加工コストの低減が急速に進んだ流れを解説したほか、「当社の本社がある鹿沼市はもとも木材で栄えた町であり、そのシンボルともなる鹿沼市庁舎を県産材CLTで建て替えることを市